

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2013に準拠して作成

アロマターゼ阻害剤/閉経後乳癌治療剤

アナストロゾール錠1mg「JG」

Anastrozole Tablets

剤形	錠剤（フィルムコーティング錠）
製剤の規制区分	劇薬、処方箋医薬品（注意－医師等の処方箋により使用すること）
規格・含量	1錠中 アナストロゾール 1.0mg 含有
一般名	和名：アナストロゾール（JAN） 洋名：Anastrozole（JAN）
製造販売承認年月日 薬価基準収載・ 発売年月日	製造販売承認年月日：2012年8月15日 薬価基準収載年月日：2012年12月14日 発売年月日：2012年12月14日
開発・製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	製造販売元：日本ジェネリック株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	日本ジェネリック株式会社 お客様相談室 受付時間：9時～18時（土、日、祝日を除く） TEL 0120 - 893 - 170 FAX 0120 - 893 - 172 医療関係者向けホームページ： http://www.nihon-generic.co.jp/medical/index.html

本IFは2018年9月改訂の添付文書の記載に基づき改訂した。

最新の添付文書情報は、(独)医薬品医療機器総合機構(PMDA)ホームページ「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>にてご確認ください。

IF 利用の手引きの概要 —日本病院薬剤師会—

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和 63 年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IF と略す）の位置付け並びに IF 記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成 10 年 9 月に日病薬学術第 3 小委員会において IF 記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会において IF 記載要領 2008 が策定された。

IF 記載要領 2008 では、IF を紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF 等の電磁的データとして提供すること（e-IF）が原則となった。この変更に合わせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版の e-IF が提供されることとなった。

最新版の e-IF は、(独)医薬品医療機器総合機構(PMDA)ホームページ「医薬品に関する情報」(<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>) から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IF を掲載する PMDA ホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせて e-IF の情報を検討する組織を設置して、個々の IF が添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008 年より年 4 回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF 記載要領の一部改訂を行い IF 記載要領 2013 として公表する運びとなった。

2. IF とは

IF は「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は IF の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された IF は、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[IF の様式]

- ①規格は A4 版、横書きとし、原則として 9 ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF 記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。

③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF 利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2 頁にまとめる。

【IF の作成】

- ①IF は原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②IF に記載する項目及び配列は日病薬が策定した IF 記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとの IF の主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領 2013」（以下、「IF 記載要領 2013」と略す）により作成された IF は、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

【IF の発行】

- ①「IF 記載要領 2013」は、平成 25 年 10 月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF 記載要領 2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合には IF が改訂される。

3. IF の利用にあたって

「IF 記載要領 2013」においては、PDF ファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体の IF については、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」に掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IF の原点を踏まえ、医療現場に不足している情報や IF 作成時に記載し難い情報等については製薬企業の MR 等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IF の利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IF が改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IF の使用にあたっては、最新の添付文書を PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」で確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IF を薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IF は日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IF があくまでも添付文書を補完する情報資材であり、インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013 年 4 月改訂)

目次

I. 概要に関する項目	1	13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	8
1. 開発の経緯	1	14. その他	8
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1		
II. 名称に関する項目	2	V. 治療に関する項目	9
1. 販売名	2	1. 効能又は効果	9
(1)和名	2	2. 用法及び用量	9
(2)洋名	2	3. 臨床成績	9
(3)名称の由来	2	(1)臨床データパッケージ	9
2. 一般名	2	(2)臨床効果	9
(1)和名(命名法)	2	(3)臨床薬理試験	9
(2)洋名(命名法)	2	(4)探索的試験	9
(3)ステム	2	(5)検証的試験	9
3. 構造式又は示性式	2	1)無作為化並行用量反応試験	9
4. 分子式及び分子量	2	2)比較試験	9
5. 化学名(命名法)	2	3)安全性試験	9
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	2	4)患者・病態別試験	9
7. CAS登録番号	2	(6)治療の使用	9
III. 有効成分に関する項目	3	1)使用成績調査・特定使用成績調査(特別調査)・製造販売後臨床試験(市販後臨床試験)	9
1. 物理化学的性質	3	2)承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要	9
(1)外観・性状	3		
(2)溶解性	3	VI. 薬効薬理に関する項目	10
(3)吸湿性	3	1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群	10
(4)融点(分解点)、沸点、凝固点	3	2. 薬理作用	10
(5)酸塩基解離定数	3	(1)作用部位・作用機序	10
(6)分配係数	3	(2)薬効を裏付ける試験成績	10
(7)その他の主な示性値	3	(3)作用発現時間・持続時間	10
2. 有効成分の各種条件下における安定性	3		
3. 有効成分の確認試験法	3	VII. 薬物動態に関する項目	11
4. 有効成分の定量法	3	1. 血中濃度の推移・測定法	11
IV. 製剤に関する項目	4	(1)治療上有効な血中濃度	11
1. 剤形	4	(2)最高血中濃度到達時間	11
(1)剤形の区別、外観及び性状	4	(3)臨床試験で確認された血中濃度	11
(2)製剤の物性	4	(4)中毒域	12
(3)識別コード	4	(5)食事・併用薬の影響	12
(4)pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定なpH域等	4	(6)母集団(ポピュレーション)解析により判明した薬物体内動態変動要因	12
2. 製剤の組成	4	2. 薬物速度論的パラメータ	12
(1)有効成分(活性成分)の含量	4	(1)解析方法	12
(2)添加物	4	(2)吸収速度定数	12
(3)その他	4	(3)バイオアベイラビリティ	12
3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	4	(4)消失速度定数	12
4. 製剤の各種条件下における安定性	5	(5)クリアランス	12
5. 調製法及び溶解後の安定性	5	(6)分布容積	12
6. 他剤との配合変化(物理化学的变化)	5	(7)血漿蛋白結合率	12
7. 溶出性	5	3. 吸収	12
8. 生物学的試験法	7	4. 分布	12
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	8	(1)血液-脳関門通過性	12
10. 製剤中の有効成分の定量法	8	(2)血液-胎盤関門通過性	12
11. 力価	8	(3)乳汁への移行性	13
12. 混入する可能性のある夾雑物	8		

(4)髄液への移行性	13	2. 毒性試験	18
(5)その他の組織への移行性	13	(1)単回投与毒性試験	18
5. 代謝	13	(2)反復投与毒性試験	18
(1)代謝部位及び代謝経路	13	(3)生殖発生毒性試験	18
(2)代謝に関与する酵素 (CYP450 等) の 分子種	13	(4)その他の特殊毒性	18
(3)初回通過効果の有無及びその割合	13	X. 管理的事項に関する項目	19
(4)代謝物の活性の有無及び比率	13	1. 規制区分	19
(5)活性代謝物の速度論的パラメータ	13	2. 有効期間又は使用期限	19
6. 排泄	13	3. 貯法・保存条件	19
(1)排泄部位及び経路	13	4. 薬剤取扱い上の注意点	19
(2)排泄率	13	(1)薬局での取扱い上の留意点について	19
(3)排泄速度	13	(2)薬剤交付時の取扱いについて (患者等に 留意すべき必須事項等)	19
7. トランスポーターに関する情報	13	(3)調剤時の留意点について	19
8. 透析等による除去率	13	5. 承認条件等	19
VIII. 安全性 (使用上の注意等) に関する項目	14	6. 包装	19
1. 警告内容とその理由	14	7. 容器の材質	19
2. 禁忌内容とその理由 (原則禁忌を含む)	14	8. 同一成分・同効薬	19
3. 効能又は効果に関連する使用上の注意と その理由	14	9. 国際誕生年月日	19
4. 用法及び用量に関連する使用上の注意と その理由	14	10. 製造販売承認年月日及び承認番号	20
5. 慎重投与内容とその理由	14	11. 薬価基準収載年月日	20
6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	14	12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追 加等の年月日及びその内容	20
7. 相互作用	14	13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及び その内容	20
(1)併用禁忌とその理由	14	14. 再審査期間	20
(2)併用注意とその理由	14	15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	20
8. 副作用	15	16. 各種コード	20
(1)副作用の概要	15	17. 保険給付上の注意	20
(2)重大な副作用と初期症状	15	X I. 文献	21
(3)その他の副作用	15	1. 引用文献	21
(4)項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異 常一覧	15	2. その他の参考文献	21
(5)基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有 無等背景別の副作用発現頻度	16	X II. 参考資料	22
(6)薬物アレルギーに対する注意及び試験法	16	1. 主な外国での発売状況	22
9. 高齢者への投与	16	2. 海外における臨床支援情報	22
10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	16	X III. 備考	23
11. 小児等への投与	16	1. 調剤・服薬支援に際して臨床判断を行う にあたっての参考情報	23
12. 臨床検査結果に及ぼす影響	16	(1)粉碎	23
13. 過量投与	16	(2)崩壊・懸濁性及び経管投与チューブの通 過性	23
14. 適用上の注意	16	2. その他の関連資料	23
15. その他の注意	17		
16. その他	17		
IX. 非臨床試験に関する項目	18		
1. 薬理試験	18		
(1)薬効薬理試験 (「VI. 薬効薬理に関する 項目」参照)	18		
(2)副次的薬理試験	18		
(3)安全性薬理試験	18		
(4)その他の薬理試験	18		

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

アナストロゾール錠 1mg「JG」は、アナストロゾールを含有するアロマターゼ阻害剤/閉経後乳癌治療剤として開発された。

アロマターゼ阻害薬 (AI) はアンドロゲンを変換するアロマターゼ酵素の機能を抑える。アナストロゾールは強力で選択的なトリアゾール AI である。¹⁾ 本邦ではアナストロゾール錠は 2001 年に上市されている。

本剤は、日本ジェネリック株式会社が後発医薬品として開発を企画し、「医薬品の承認申請について (平成 17 年 3 月 31 日 薬食発第 0331015 号)」に基づき規格及び試験方法を設定、安定性試験、生物学的同等性試験を行い製造販売承認申請し、2012 年 8 月に製造販売承認を得て、2012 年 12 月に発売した。

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

(1) 1 日 1 回投与のアロマターゼ阻害剤である。

(2) 重大な副作用として、皮膚粘膜眼症候群 (Stevens-Johnson 症候群)、アナフィラキシー、血管浮腫、蕁麻疹、肝機能障害、黄疸、間質性肺炎、血栓塞栓症があらわれることがある (全て頻度不明)。

II. 名称に関する項目

1. 販売名

(1) 和名

・ アナストロゾール錠 1mg 「JG」

(2) 洋名

・ Anastrozole Tablets 1mg “JG”

(3) 名称の由来

「一般的名称」 + 「剤形」 + 「含量」 + 「屋号」 より命名

2. 一般名

(1) 和名 (命名法)

アナストロゾール (JAN)

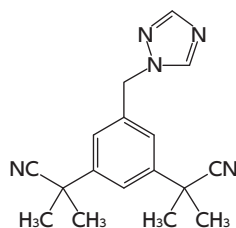
(2) 洋名 (命名法)

Anastrozole (JAN)

(3) ステム

アロマターゼ阻害薬、イミダゾールトリアゾール誘導体：-rozole

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

分子式：C₁₇H₁₉N₅

分子量：293.37

5. 化学名 (命名法)

2 - [3 - (1 - Cyano - 1 - methylethyl) - 5 - (1*H* - 1,2,4 - triazol - 1 - ylmethyl)phenyl] - 2 - methylpropanenitrile (IUPAC)

6. 慣用名、別名、略号、記号番号

特になし

7. CAS 登録番号

120511-73-1

III. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

白色の粉末である。

(2) 溶解性

アセトニトリルに極めて溶解やすく、*N,N*-ジメチルホルムアミド、メタノール、エタノール (99.5) に溶解やすく、水に極めて溶解にくい。

(3) 吸湿性

該当資料なし

(4) 融点 (分解点)、沸点、凝固点

該当資料なし

(5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

該当資料なし

2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

3. 有効成分の確認試験法

赤外吸収スペクトル測定法 (臭化カリウム錠剤法)


4. 有効成分の定量法

液体クロマトグラフィー

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別、外観及び性状

販 売 名	アナストロゾール錠 1mg 「JG」
色 ・ 剤 形	白色の円形のフィルムコーティング錠
外 形	
大きさ (mm)	直径：6.1 厚さ：3.2
重 量 (g)	0.1

(2) 製剤の物性

該当資料なし

(3) 識別コード

錠剤本体ならびに PTP シート上に記載：JG G11

(4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定な pH 域等

該当しない

2. 製剤の組成

(1) 有効成分（活性成分）の含量

1 錠中 アナストロゾール 1.0mg 含有

(2) 添加物

乳糖水和物、デンプングリコール酸ナトリウム、ポビドン、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、酸化チタン、マクロゴール 300

(3) その他

該当しない

3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当しない

4. 製剤の各種条件下における安定性

◎ 加速試験²⁾

包装形態：PTP 包装

保存条件：40±1℃/75±5%RH

保存期間：6 ヶ月

試験項目：性状、確認試験、製剤均一性試験、溶出試験、定量試験

試験項目	性状	確認試験	製剤均一性試験	溶出試験 (%)	定量試験 (%)
規格	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
試験開始時	適合	適合	適合	100	101.0
2 ヶ月後	適合	適合	適合	99	100.3
4 ヶ月後	適合	適合	適合	100	99.8
6 ヶ月後	適合	適合	適合	100	100.0

(1) 白色の円形のフィルムコーティング錠である

(2) 赤外吸収スペクトル：3100cm⁻¹、2990 cm⁻¹、2240 cm⁻¹、1607 cm⁻¹、1502 cm⁻¹、1476 cm⁻¹、1360 cm⁻¹ 及び 764 cm⁻¹ 付近に吸収を認める。

(3) 含量均一性試験：判定値が 15.0%を超えない。

(4) 15 分間、80%以上 (水 900mL、パドル法、50rpm)

(5) 表示量の 95.0~105.0%

最終包装製品を用いた加速試験 (40℃、相対湿度 75%、6 ヶ月) の結果、通常の市場流通下において 3 年間安定であることが推測された。

5. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

6. 他剤との配合変化 (物理化学的变化)

該当資料なし

7. 溶出性

【溶出挙動の類似性】³⁾

「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について (平成 18 年 11 月 24 日 薬食審査発第 1124004 号)」に従う。

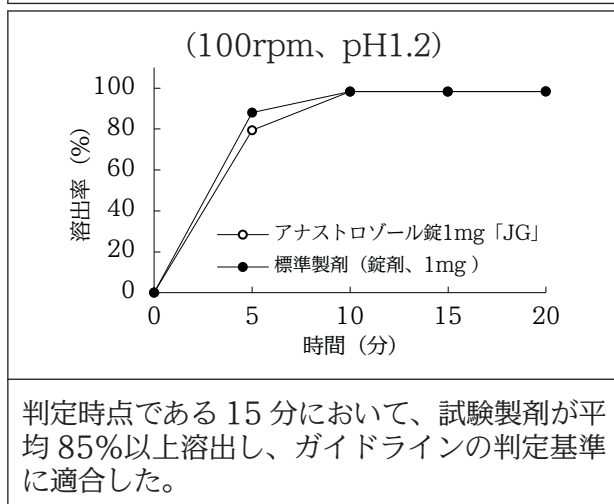
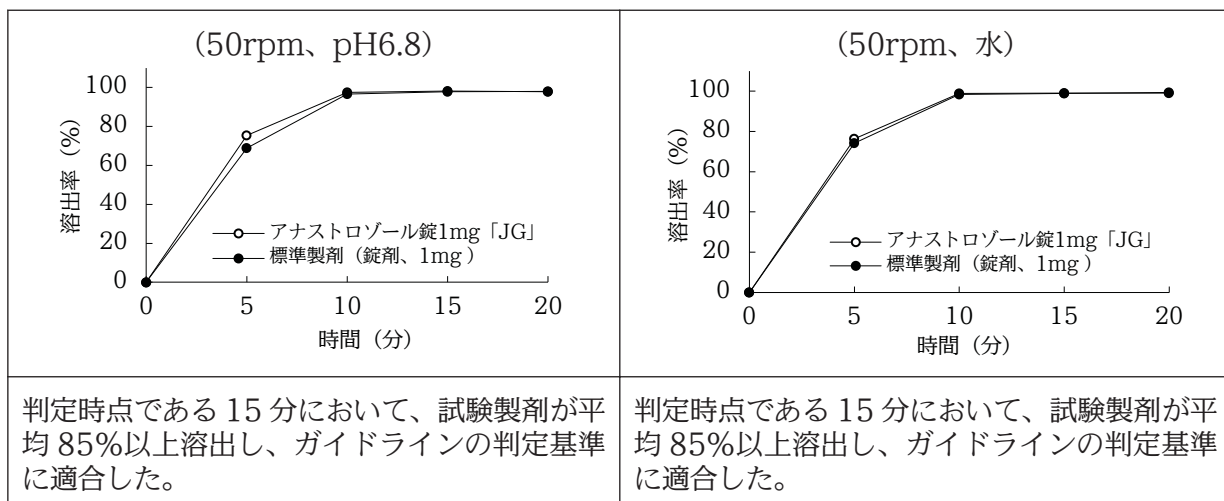
試験方法	日本薬局方 一般試験法溶出試験法 (パドル法)			
試験条件	回転数/試験液	50rpm	pH1.2	日本薬局方 溶出試験第 1 液
			pH4.0	薄めた McIlvaine の緩衝液
			pH6.8	日本薬局方 溶出試験第 2 液
			水	日本薬局方 精製水
	100rpm	pH1.2	日本薬局方 溶出試験第 1 液	
試験液量：900mL 試験回数：12 ベッセル				
分析法	紫外可視吸光度測定法			

・ 判定基準

回転数 (rpm)	試験液	判定基準
50	pH1.2	試験製剤が 15 分以内に平均 85%以上溶出するか、又は 15 分における試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にある。
	pH4.0	
	pH6.8	
	水	
100	pH1.2	

・ 試験結果

<p>(50rpm、pH1.2)</p>	<p>(50rpm、pH4.0)</p>
<p>判定時点である 15 分において、試験製剤が平均 85%以上溶出し、ガイドラインの判定基準に適合した。</p>	<p>判定時点である 15 分において、試験製剤が平均 85%以上溶出し、ガイドラインの判定基準に適合した。</p>



溶出挙動の類似性の判定 (平均溶出率)

回転数 (rpm)	試験液	判定時点 (min)	平均溶出率 (%)		判定
			標準製剤 (錠剤、1mg)	試験製剤 (アナストロゾール錠 1mg「JG」)	
50	pH1.2	15	99.6	98.7	適合
	pH4.0	15	99.0	98.2	適合
	pH6.8	15	97.8	98.1	適合
	水	15	98.9	99.0	適合
100	pH1.2	15	98.3	98.3	適合

・結論

標準製剤と試験製剤の平均溶出率を比較したところ、いずれの試験条件においても「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」の判定基準に適合していた。
 以上より、標準製剤と試験製剤の溶出挙動の類似性が確認された。

8. 生物学的試験法

該当しない

9. 製剤中の有効成分の確認試験法
赤外吸収スペクトル測定法（臭化カリウム錠剤法）
10. 製剤中の有効成分の定量法
液体クロマトグラフィー
11. 力価
該当しない
12. 混入する可能性のある夾雑物
該当資料なし
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報
該当しない
14. その他
該当しない

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

閉経後乳癌

2. 用法及び用量

通常、成人にはアナストロゾールとして1mgを1日1回、経口投与する。

3. 臨床成績

(1) 臨床データパッケージ

該当資料なし

(2) 臨床効果

該当資料なし

(3) 臨床薬理試験

該当資料なし

(4) 探索的試験

該当資料なし

(5) 検証的試験

1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

2) 比較試験

該当資料なし

3) 安全性試験

該当資料なし

4) 患者・病態別試験

該当資料なし

(6) 治療的使用

1) 使用成績調査・特定使用成績調査（特別調査）・製造販売後臨床試験（市販後臨床試験）

該当資料なし

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

アロマトラーゼ阻害剤

(エキセメスタン、レトロゾール)

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序

アロマトラーゼ阻害薬 (AI) はアンドロゲンをエストロゲンに変換するアロマトラーゼ酵素の機能を抑える。アナストロゾールは CYP19 のヘムに競合的、特異的に結合する。¹⁾

(2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

(3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 最高血中濃度到達時間

閉経後健康女性

薬剤名	投与量	投与方法	Tmax (hr)
アナストロゾール錠 1mg 「JG」	1錠 (アナストロゾール として1mg)	絶食単回 経口投与	1.4±0.7

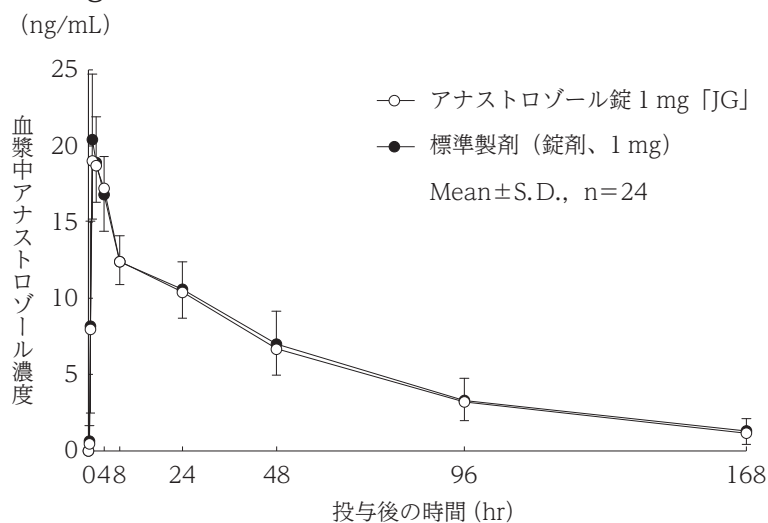
(Mean±S.D.,n=24)

(3) 臨床試験で確認された血中濃度

【生物学的同等性試験】⁴⁾

「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について（平成18年11月24日 薬食審査発第1124004号）」に従う。

アナストロゾール錠 1mg 「JG」と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ1錠（アナストロゾールとして1mg）閉経後健康女性に絶食単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC、Cmax）について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。



<薬物動態パラメータ>

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC ₀₋₁₆₈ (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T _{1/2} (hr)
アナストロゾール錠 1mg 「JG」	876±189	20.2±2.7	1.4±0.7	45.1±11.7
標準製剤 (錠剤、1mg)	903±234	20.9±3.9	1.2±0.5	47.6±13.6

(Mean±S.D.,n=24)

血漿中濃度並びに AUC、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

<同等性の判定結果>

	AUC ₀₋₁₆₈	Cmax
90%信頼区間	log (0.946) ~log (1.018)	log (0.925) ~log (1.029)

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

該当資料なし

(6) 母集団（ポピュレーション）解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) 解析方法

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4) 消失速度定数

閉経後健康女性

薬剤名	投与量	投与方法	kel (hr ⁻¹)
アナストロゾール錠 1mg 「JG」	1 錠 (アナストロゾール として 1mg)	絶食単回 経口投与	0.0165±0.0047

(Mean±S.D.,n=24)

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率

「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目 - 13. 過量投与」の項参照

3. 吸収

該当資料なし

4. 分布

(1) 血液－脳関門通過性

該当資料なし

(2) 血液－胎盤関門通過性

「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目 - 10. 妊娠、産婦、授乳婦等への投与」の項参照

(3) 乳汁への移行性

該当資料なし

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

N-脱アルキル化、水酸化、グルクロン酸抱合により代謝される。¹⁾

(2) 代謝に関与する酵素（CYP450 等）の分子種

該当資料なし

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排泄

(1) 排泄部位及び経路

主に肝臓と胆管を経由して排出される。¹⁾

(2) 排泄率

該当資料なし

(3) 排泄速度

該当資料なし

7. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

8. 透析等による除去率

「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目 - 13. 過量投与」の項参照

VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当しない

2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

- (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人〔動物実験（ラット）で胎児の発育遅延が認められている。また、動物実験（ラット及びウサギ）で胎児への移行が認められている〕（「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照）
- (2) 授乳婦〔本剤の授乳中婦人における使用経験はない〕（「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照）
- (3) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由

慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

重度の肝・腎障害のある患者〔本剤の重度の肝・腎障害患者における安全性は確立していない〕

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

重要な基本的注意

- (1) 本剤の特性ならびに使用経験がないことを考慮して閉経前患者への使用は避けること。
- (2) 本剤は内分泌療法剤であり、がんに対する薬物療法について十分な知識・経験を持つ医師のもとで、本剤による治療が適切と判断される患者についてのみ使用すること。
- (3) 本剤の投与によって、骨粗鬆症、骨折が起りやすくなるので、骨密度等の骨状態を定期的に観察することが望ましい。

7. 相互作用

(1) 併用禁忌とその理由

該当しない

(2) 併用注意とその理由

該当しない

8. 副作用

(1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2) 重大な副作用と初期症状

重大な副作用（以下、全て頻度不明）

1) 皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson 症候群）

皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson 症候群）があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

2) アナフィラキシー、血管浮腫、蕁麻疹

アナフィラキシー、血管浮腫、蕁麻疹等の過敏症状があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

3) 肝機能障害、黄疸

AST (GOT)、ALT (GPT)、ALP、 γ -GTP の上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、定期的な肝機能検査を行うなど、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

4) 間質性肺炎

間質性肺炎があらわれることがあるので、咳嗽、呼吸困難、発熱等の臨床症状を十分に観察し、異常が認められた場合には、胸部 X 線、胸部 CT 等の検査を実施すること。間質性肺炎が疑われた場合には投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。

5) 血栓塞栓症

深部静脈血栓症、肺塞栓症等があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

(3) その他の副作用

		頻 度 不 明	
全	身	ほてり、頭痛、倦怠感、無力症、疲労	
肝	臓	肝機能検査値異常 (AST (GOT) 上昇、ALT (GPT) 上昇、ALP 上昇、 γ -GTP 上昇、ビリルビン上昇)	
消	化	器	嘔気、食欲不振、嘔吐、下痢
精	神	神 経 系	感覚異常（錯感覚、味覚異常を含む）、傾眠、手根管症候群
皮	膚		脱毛、発疹、皮膚血管炎、IgA 血管炎
筋	・	骨 格 系	関節痛、硬直、骨折、関節炎、骨粗鬆症、骨痛、弾発指、筋肉痛
生	殖	器	性器出血 ^{注)} 、腔乾燥
血	液		白血球減少、好中球減少
そ	の	他	高コレステロール血症、高カルシウム血症

注) 性器出血が認められた場合には直ちに検査を行うなど適切な処置を行うこと。

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目 - 2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）、-8. 副作用（2）重大な副作用と初期症状」の項参照」の項参照

9. 高齢者への投与

他社が実施したアナストロゾール 1mg 錠の臨床試験成績から、高齢者と非高齢者において血漿中濃度及び副作用の発現率並びにその程度に差は見られていない。しかし、一般に高齢者では生理機能が低下しており、副作用があらわれやすいので慎重に投与すること。

10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

本剤は、閉経後患者を対象とするものであることから、妊婦、授乳婦に対する投与は想定していないが、妊婦、授乳婦への投与の安全性については次の知見がある。

- (1) 妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。[動物実験（ラット）で胎児の発育遅延が認められている。また、動物実験（ラット及びウサギ）で胎児への移行が認められている]
- (2) 授乳婦への投与に関する安全性は確立していない。[本剤の授乳中婦人における使用経験はない]

11. 小児等への投与

該当しない

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当しない

13. 過量投与

他社が実施した、アナストロゾール 60mg を単回投与した臨床試験においても、忍容性は良好であった。過量投与には以下の処置を考慮すること。

処置：

本薬の過量投与に特異的な解毒薬はないため、対症療法を行うこと。過量投与時の処置においては、複数の薬剤を服用していた可能性を考慮すること。患者の意識がある場合は、嘔吐を誘発してもよい。本薬の蛋白結合率は高くないので、透析も有用と考えられる。バイタルサインの頻繁なモニタリングや患者を注意深く観察すること。

14. 適用上の注意

薬剤交付時：

PTP 包装の薬剤は PTP シートから取り出して服用するよう指導すること。（PTP シートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている）

15. その他の注意

- (1) 本剤との関連性は明確ではないが、他社が実施した臨床試験において無力症や傾眠等が報告されているので、自動車の運転や機械の操作には注意すること。
- (2) ラット 2 年間がん原性試験において高用量 (25mg/kg/日) のみで雌の肝臓腫瘍及び雄の甲状腺腫瘍増加が認められた。この変化はヒトへの治療用量投与時の暴露の雄で約 80 倍以上、雌で約 90 倍以上の時にのみ増加することから、患者への本剤投与時の臨床的な安全性との関連性は低いと考えられる。マウス 2 年間がん原性試験では良性卵巣腫瘍の増加が認められた。この変化はアロマターゼ阻害によるマウスに特異的な変化であると考えられ患者への本剤投与時の臨床的な安全性との関連性は低いと考えられる。
- (3) ラット及びウサギを用いた生殖発生毒性試験において、本薬の薬理作用に起因すると考えられる着床数、妊娠率及び出生児数の低下、胎盤の肥大等が認められている。

16. その他

該当しない

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験 (「VI. 薬効薬理に関する項目」参照)

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

「VIII. 安全性 (使用上の注意等) に関する項目 - 10. 妊娠、産婦、授乳婦等への投与、 - 15. その他の注意 (3)」の項参照

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製 剤	アナストロゾール錠 1mg 「JG」	劇薬、処方箋医薬品*
有 効 成 分	アナストロゾール	劇薬

※注意－医師等の処方箋により使用すること

2. 有効期間又は使用期限

使用期限：3年（安定性試験結果に基づく）

3. 貯法・保存条件

室温保存

4. 薬剤取扱い上の注意点

(1) 薬局での取扱い上の留意点について

該当しない

(2) 薬剤交付時の取扱いについて（患者等に留意すべき必須事項等）

「V. 治療に関する項目 -2. 用法及び用量、VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目 -14. 適用上の注意、-15. その他の注意（1）」の項参照

- ・くすりのしおり：有り
- ・患者様用指導箋：有り

http://www.nihon-generic.co.jp/medical/search/files/ANAST_GUIDE.pdf

(3) 調剤時の留意点について

該当しない

5. 承認条件等

該当しない

6. 包装

PTP：30錠（10錠×3）、100錠（10錠×10）

7. 容器の材質

PTP包装：ポリ塩化ビニルフィルム・アルミニウム箔（PTP）、紙箱

8. 同一成分・同効薬

同一成分：アリミデックス®錠 1mg（アストラゼネカ）

同 効 薬：エキセメスタン、レトロゾール、トレミフェンクエン酸塩

9. 国際誕生年月日

該当しない

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

販売名	製造販売承認年月日	承認番号
アナストロゾール錠 1mg「JG」	2012年8月15日	22400AMX01017000

11. 薬価基準収載年月日

2012年12月14日

12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

14. 再審査期間

該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報

本剤は、投薬（あるいは投与）期間に関する制限は定められていない。

16. 各種コード

販売名	HOT（9桁）番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト電算 コード
アナストロゾール錠 1mg「JG」	122044501	4291010F1074	622204401

17. 保険給付上の注意

本剤は診療報酬上の後発医薬品である。

X I. 文献

1. 引用文献

- 1) 高折修二、福田英臣、赤池昭紀、石井邦雄 監訳：グッドマン・ギルマン薬理書・下（第12版）、2290-2293（2013）、廣川書店
- 2) 日本ジェネリック株式会社 社内資料；
アナストロゾール錠 1mg「JG」の安定性試験（2012）
- 3) 日本ジェネリック株式会社 社内資料；
アナストロゾール錠 1mg「JG」の溶出試験（2012）
- 4) 日本ジェネリック株式会社 社内資料；
アナストロゾール錠 1mg「JG」の生物学的同等性試験（2012）

2. その他の参考文献

該当資料なし

X II. 参考資料

1. 主な外国での発売状況

該当しない

2. 海外における臨床支援情報

(1) 妊婦に関する海外情報 (FDA、オーストラリア分類)

本邦における使用上の注意「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項の記載は以下のとおりであり、米FDA、オーストラリア分類とは異なる。

【使用上の注意】「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」

本剤は、閉経後患者を対象とするものであることから、妊婦、授乳婦に対する投与は想定していないが、妊婦、授乳婦への投与の安全性については次の知見がある。

- (1) 妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。[動物実験（ラット）で胎児の発育遅延が認められている。また、動物実験（ラット及びウサギ）で胎児への移行が認められている]
- (2) 授乳婦への投与に関する安全性は確立していない。[本剤の授乳中婦人における使用経験はない]

	分類
FDA : Pregnancy Category	X
ADEC : (An Australian categorisation of risk of drug use in pregnancy)	C

参考：分類の概要

FDA : Pregnancy Category

X : Studies in animals or humans have demonstrated fetal abnormalities or there is positive evidence of fetal risk based on adverse reaction reports from investigational or marketing experience, or both. The risk involved in the use of the drug in pregnant women clearly outweighs any possible benefits.

< https://www.accessdata.fda.gov/drugsatfda_docs/label/2014/020541s029lbl.pdf > (2018/9/4 アクセス)

ADEC : (An Australian categorisation of risk of drug use in pregnancy)

C : Drugs which, owing to their pharmacological effects, have caused or may be suspected of causing, harmful effects on the human fetus or neonate without causing malformations. These effects may be reversible. Accompanying texts should be consulted for further details.

< <https://www.tga.gov.au/prescribing-medicines-pregnancy-database> > (2018/9/4 アクセス)

X III. 備考

1. 調剤・服薬支援に際して臨床判断を行うにあたっての参考情報

本項の情報に関する注意：本項には承認を受けていない品質に関する情報が含まれる。試験方法等が確立していない内容も含まれており、あくまでも記載されている試験方法で得られた結果を事実として提示している。医療従事者が臨床適用を検討する上での参考情報であり、加工等の可否を示すものではない。

(1) 粉碎

個別に照会すること

日本ジェネリック株式会社 お客様相談室
受付時間：9時～18時（土、日、祝日を除く）
TEL 0120 - 893 - 170 FAX 0120 - 893 - 172

(2) 崩壊・懸濁性及び経管投与チューブの通過性

1. 試験方法

崩壊懸濁試験：

ディスペンサー内に錠剤1個を入れ、55℃の温湯20mLを吸い取り5分間自然放置した。5分後にディスペンサーを90度で15往復横転し、崩壊・懸濁の状況を確認した。5分後に崩壊しない場合、さらに5分間放置後同様の操作を行った。10分間放置しても崩壊・懸濁しない場合、錠剤を粉碎してから同様に試験を行った。

通過性試験：

崩壊懸濁試験で得られた懸濁液を経管栄養チューブの注入端より2～3mL/秒の速度で注入し、チューブのサイズ、8, 12, 14, 16, 18 フレンチ（以下Fr.とする）において通過する最小経管栄養チューブのサイズを確認した。

2. 試験結果

表1 崩壊懸濁試験結果

品目名	崩壊・懸濁状況
アナストロゾール錠1mg「JG」	10分の時点で崩壊・懸濁した

表2 通過性試験結果

品目名	最小通過サイズ
アナストロゾール錠1mg「JG」	8Fr.チューブを通過した

2. その他の関連資料

該当資料なし

Memo

Memo

Memo



日本ジェネリック株式会社

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号